

# メシアへの期待とイエス・キリスト

## ◆ イザヤの預言

1. ㊦ 「見よ、わたしの僕、わたしが支える者を。わたしが選び、喜び迎える者を。彼の上にわたしの霊は置かれ／彼は国々の裁きを導き出す。彼は叫ばず、呼ばわず、声を巷に響かせない。傷ついた藁を折ることなく／暗くなってゆく灯心を消すことなく／裁きを導き出して、確かなものとする。暗くなることも、傷つき果てることもない／この地に裁きを置くときまでは。島々は彼の教えを待ち望む。」イザ 42:1-4  
◇ イザヤの預言によれば、メシアは、人間の弱さをよく理解する方で、人間を罪に定めることなく、人間を優しく、忍耐強く神が求めるような生活に導く方になるということです。

## ◆ 洗礼者ヨハネの期待

2. ㊦ 「そのころ、洗礼者ヨハネが現れて、ユダヤの荒れ野で宣べ伝え、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言った。」マタ 3:1
3. ㊦ 「...そこでヨハネは、洗礼を授けてもらおうとして出て来た群衆に言った。「蝮の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。悔い改めにふさわしい実を結べ。... 斧は既に木の根元に置かれている。良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。」... 民衆はメシアを待ち望んでいて、ヨハネについて、もしかしたら彼がメシアではないかと、皆心の中で考えていた。そこで、ヨハネは皆に向かって言った。「わたしはあなたたちに水で洗礼を授けるが、わたしよりも優れた方が来られる。わたしは、その方の履物のひもを解く値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。そして、手に箕を持って、脱穀場を隅々まできれいにし、麦を集めて倉に入れ、殻を消えることのない火で焼き払われる。」ルカ 3:1-18
4. ㊦ 「イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。」マタ 2:1-3
5. ㊦ 「ヨハネの弟子たちが、これらすべてのことについてヨハネに知らせた。そこで、ヨハネは弟子の中から二人を呼んで、主のもとに送り、こう言わせた。「来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか。」ルカ 7:18-23  
◇ メシアについての洗礼者ヨハネの教え：
  - 人間をその行いに基づいて裁き、神の掟に背いている人に厳しい罰を与えます
  - メシアが来る前に（悔い改めて）回心して、掟に従うようになった人に報いを与えます◇ ヨハネにとって神の国の到来とは、裁きの日、また、「神の復讐」の日の到来を意味しましたので、神の国が近づいているというメッセージは、人々の心に恐怖や不安をもたらしたわけです。  
◇ ヨハネはイエスに会った時に、イエスがメシアであると確信しましたが、イエスがヨハネの期待に合わない活動をしたり、罪人に対してヨハネの想像と正反対の態度をとったりするのを見たら、イエスがメシアであることを疑うようになりました。

## ◆ ファリサイ派の教え

ユダヤ教の中のファリサイ派(ヘ:perûšîm:“離れたもの”の意)は、イエス・キリストの時代には6,000人余りを擁していたと言われる。エッセネ派と同様、この一派も通常、マカバイ時代に異国の影響に対して必死の戦いを交えたハシディーム(“敬虔な人々”の意)の流れをくむものとされる(1 マカ 2:42-46)。律法学者ではほとんどの者が、祭司では少数の者がこの派に属している。ファリサイ派の人々が宗教的な団体として組織されたのは、律法に対する忠実とヤーウェに対する熱意を保持するためである。(ユダヤ教の信徒による刷新運動)

6. ㊦ 「二人の人が祈るために神殿に上った。一人はファリサイ派の人で、もう一人は徴税人だった。㊦  
㊦ファリサイ派の人は立って、心の中でこのように祈った。『神様、わたしはほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者でなく、また、この徴税人のような者でもないことを感謝します。わたしは週に二度断食し、全収入の十分の一を献げています。』ところが、徴税人は遠くに

立って、目を天に上げようともせず、胸を打ちながら言った。『神様、罪人のわたしを憐れんでください。』言っておくが、義とされて家に帰ったのは、この人であって、あのファリサイ派の人ではない。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」ルカ 18:10-14

- ✧ ファリサイ派の教えによれば、神は、律法に忠実に生きている意味での清い人を祝福します。逆に、律法に背いている意味での汚れた人を呪います。ですから、神の祝福を受けるためには人はまず回心して清くならなければならない、つまり律法に従って生きようにならなければならないと考えていました。
- ✧ 汚れたものや汚れた人に触れる人が自ら汚れると考えたファリサイ派の人たちは、神の祝福を失わないために、罪を犯さないように気を付けただけでなく、汚れていると思ったものに触れないように、また、汚れていると思った人と接しないように注意を払っていました。
- ✧ ファリサイ派の人たちは、自分たちが清くて、正しい人であると思ったので、メシアの裁きを恐れていませんでした。彼らは、メシアが来られたら、汚れている他の人に罰を、自分たちに報いを与えると考えていました。
- ✧ ファリサイ派の人たちが、イエス・キリストをメシアとして認めなかった主な理由：
  - イエスは、（法律ではなく、人間の善を優先していた故に）安息日に人を癒やし、宗教的な清さに関するいろいろな掟や習慣を守っていませんでした。
  - イエスは、病人や罪人の間で時間を過ごしたり、彼らの体に触れたり、一緒に食事をしたりした上で、定められた清めの儀式を無視して、罪のゆるしを宣言しました。
  - イエスは、ファリサイ派の人々の「正しさ」を認める代わりに、常に彼らを批判していました。

## ◆ イエスが受けた誘惑とイスラエル人の期待

7. ㊦ 「... そこで、悪魔はイエスに言った。「神の子なら、この石にパンになるように命じたらどうだ。」... そして悪魔は言った。「この国々の一切の権力と繁栄とを与えよう。それはわたしに任されていて、これと思う人に与えることができるからだ。だから、もしわたしを拝むなら、みんなあなたのものになる。」... そこで、悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて言った。「神の子なら、ここから飛び降りたらどうだ。...」ルカ 4,1-13

### ✧ メシアに関するイスラエル人の期待

- 経済的な豊かさを与える

8. ㊦ 「そこで、人々はイエスのなさったしるし（パンと魚を増やしたこと）を見て、「まさにこの人こそ、世に来られる預言者である」と言った。イエスは、人々が来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、ひとりでもた山に退かれた。」ヨハ 6:14-15

- ローマ人の支配下からイスラエルを解放し、イスラエルの支配を他の国に広める

9. ㊦ 「わたしたちは、あの方こそイスラエルを解放してくださいと望みをかけていました。しかも、そのことがあってから、もう今日で三日目になります。」ルカ 24:21

- どこから来るかが誰も分からない

- 奇跡を行う力を持つ

10. ㊦ 「しかし、わたしたちは、この人がどこの出身かを知っている。メシアが来られるときは、どこから来られるのか、だれも知らないはずだ。」ヨハ 7:27

11. ㊦ 「しかし、群衆の中にはイエスを信じる者が大勢いて、「メシアが来られても、この人よりも多くのしるしをなさるだろうか」と言った。」ヨハ 7:31

- ✧ メシアに対するイスラエル人の期待に基づく悪霊の誘惑は、皆に受け入られて、メシアとしての活動が成功するために、民衆の期待に応えるようにという誘惑でした。
- ✧ イエスは、この誘惑を拒むことによって、イスラエル人の期待に応じるのではなく、父である神の望みとその計画に従うという決心を表しました。
- ✧ イエスは、洗礼者ヨハネやファリサイ派の人たちや一般イスラエル人が想像していたメシアと全く異なる方でしたので、殆どのイスラエル人はイエスを受け入れることができませんでした。

## ◆ イエスの洗礼と教え

12. ㊦ 「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。」ルカ 3:21-22
13. ㊦ 「イエスは言われた。「フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分かっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのだ。」ヨハ 14:9
14. ㊦ 「御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって」ヘブ 1:3
  - ◇ イエスは、すべてのことにおいて神の望みに従い、神の心に適う人でしたので、自分の言葉と行いによって、神の真の姿（望み、愛）を現してくださいました。
15. ㊦ 「父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。」マタ 5:45
16. ㊦ 「ファリサイ派の人々やその派の律法学者たちはつぶやいて、イエスの弟子たちに言った。「なぜ、あなたたちは、徴税人や罪人などと一緒に飲んだり食べたりするのか。」イエスはお答えになった。「医者が必要とするのは、健康な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである。」ルカ 5:30-32
  - ◇ イエスは罪を犯したことがなかったが、公の活動の最初から最後まで罪人の間にいました。それによって罪人（すべての人）との連帯を示し、罪人に対する神の愛を現しました。
  - ◇ イエスの教え：
    - 神は人間を愛しているゆえに、人間の回心を求めています。
    - 罪を犯した人が神を知るようになって、神に立ち返りたい、神のみ旨に従って生きたいと望むようになるために、神は、いつもこの人と共にいて、ご自分の愛を示してくださいます。
    - 神のみ旨（望み）に従って生きることは、神の祝福を受ける条件ではなく、この祝福（恵み）の結果なのです。
  - ◇ メシアが世に来られたのは、人を裁いて、罰を与えるためではなく、人を癒すため、つまり回心と神との和解を必要としている人に神の愛を現し、彼らを神のもとへ導くためです。
  - ◇ イエスが現した神：
    - いつも、無条件に人間を愛してくださる方
    - いつも罪をゆるして（神のもとに戻りたいと望むようになった人をご自分との交わりに受け入れて）くださる方
    - いつも共におられる方

## ◆ イエスの使命

17. ㊦ 「イエスは“霊”の力に満ちてガリラヤに帰られた。その評判が周りの地方一帯に広まった。イエスは諸会堂で教え、皆から尊敬を受けられた。イエスはお育ちになったナザレに来て、いつものとおり安息日に会堂に入り、聖書を朗読しようとしてお立ちになった。預言者イザヤの巻物が渡され、お開きになると、次のように書いてある個所が目にとまった。「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、／主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、／捕らわれている人に解放を、／目の見えない人に視力の回復を告げ、／圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」」イエスは巻物を巻き、係の者に返して席に座られた。会堂にいるすべての人の目がイエスに注がれていた。そこでイエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。・・・これを聞いた会堂内の人々は皆憤慨し、総立ちになって、イエスを町の外へ追い出し、町が建っている山の崖まで連れて行き、突き落とそうとした。」ルカ 4:14-21, 28-29
18. ㊦ 「主はわたしに油を注ぎ／主なる神の霊がわたしをとらえた。わたしを遣わして／貧しい人に良い知らせを伝えさせるために。打ち砕かれた心を包み／捕らわれ人には自由を／つながれている人には解放を告知させるために。主が恵みをお与えになる年／わたしたちの神が報復される日を告知して／嘆いている人々を慰め」イザ 61:1-2
  - ◇ 「神が報復される日」について語る個所を省いたイエスは、預言の本来の意味を現した。
  - ◇ イスラエル人にとって、そのような読み方は聖書を侮辱するものであったので、イエスを殺そうとしたわけです。
19. ㊦ 「彼らに言いなさい。わたしは生きている、と主なる神は言われる。わたしは悪人が死ぬのを喜ばない。むしろ、悪人がその道から立ち帰って生きることを喜ぶ。立ち帰れ、立ち帰れ、お前たちの悪しき道から。イスラエルの家よ、どうしてお前たちは死んでよいだろうか。」エゼ 33:11

◆ どうして、イスラエル人が神のことにメシアのことを誤解していたのでしょうか。

20. ㊦ 「神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられますが、人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大いなる方の右の座にお着きになりました。」ヘブ 1:1-3
- ✧ 神はご自分のことを、最初から完全な形で現してくださったのではありません。人間の理解力や心の状態に応じて自分のことを少しずつ現してくださったのです。
  - ✧ 旧約聖書は、この神の啓示の発展の過程を表していますが、イエス・キリストは神の啓示の頂点なのです。ですから、旧約聖書を正しく理解するために、場合によって間違っている表現と、この表現によって啓示されている真理を区別するために、イエスの教えと行いを基準として用いる必要があります。
21. ㊦ 「しかし、村人はイエスを歓迎しなかった。イエスがエルサレムを目指して進んでおられたからである。弟子のヤコブとヨハネはそれを見て、「主よ、お望みなら、天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか」と言った。イエスは振り向いて二人を戒められた。」ルカ 9:53-55
- ✧ 元々イスラエル人の神についての考え方やイメージは、当時の権力者の振る舞いに基づいていましたので、旧約聖書において、神が全能であるという（啓示された）真理は、敵に対する勝利や悪人に対する復讐をとおして、また、人間が神に逆らうことが神のわざであるというような言い方によって表現されていました。
  - ✧ 実際に神が、全能者であるとは、無から宇宙万物を創ることができる、また、人間が神の計画に協力しなくても、神の計画に逆らっても、人間が犯した罪や行った悪から善を引き出しながらも、この計画を実現する（世界を最初から定めた目的に導く）ことができるということなのです。
  - ✧ 神は一人ひとりの人にとっていつくしみ深い方で、人が（多くの場合聖書において罰と呼ばれている）罪の結果によって苦しむことではなく、人が回心することを求めておられる方であることをイエスが言葉と行いをもって現してくださいました。
22. ㊦ 「そのときから、イエスは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言って、宣べ伝え始められた。」マタ 4:17
- ✧ イエスにとって「神の国の到来」は、神の恵みといつくしみの到来、つまり救い（神との愛の交わりに生きる可能性）の到来でした。それゆえ、イエスの教えは、人々の心に恐れではなく、大きな希望と喜びをもたらす「良い知らせ」（福音）でした。
  - ✧ （罰と言われている）罪の可能な結果を意識することがもたらす恐れは、人間の振る舞いを変えることができるかもしれませんが、無条件の愛の体験には、人の心を変える（結果的にこの人の振る舞いをも変える）力があります。
  - ✧ イエスが求めたのは、人々が口先、つまり言葉や表面的な行い（偽善）によってではなく、自分の愛と忠実によって、心から神を崇めるようになることでした。

◆ 人間の回心(悔い改め)についての教え

	洗礼者ヨハネ	ファリサイ派	イエス・キリスト
神との関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 神は審判者</li> <li>・ 神の裁き（報復）としての神の国の到来を告げた</li> <li>・ 断食と祈り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 神は審判者</li> <li>▪ 律法と習慣を守る</li> <li>▪ 清めの式、断食と祈り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 神はいつくしみ深い父</li> <li>▪ 神との交わりとしての神の国の到来を告げた</li> <li>▪ 天の父への祈り</li> </ul>
罪人への態度	悔い改めの洗礼を授けた	交流しない	罪人との交流
実践	回心に続くゆるし	回心に続くゆるし	一緒に食卓を囲み、ゆるしを宣言した
目的	罰を避けること	神の祝福を受けて、共に祝うこと	回心と神との和解